

発表内容を共有しコメントし合う場づくり

—総合日本語2・「話す活動」実践の工夫—

萩原 喜美子

科目名：総合日本語2

レベル：初級1・**2** / 中級3・4・5 / 上級6・7・8

履修者数：16名

1. 授業概要

本稿では、早稲田大学日本語教育研究センターで2023年度春学期に筆者が担当した総合日本語2「話す活動」の実践について紹介する。総合日本語2は初級後半の学習者を対象とし、目標は基本的な言葉と文法を学習して、毎日の生活の中で日本語を使ってコミュニケーションできるようになることである。

「話す活動」は総合日本語2の口頭表現活動であり、目標は1) 1つのトピックについて、まとまった話ができるようになる、2) 聞いている人のことを考えて、わかりやすく伝えられるようになることである。コースの指導内容やスケジュールはコーディネーターによって決められており、「話す活動」はコースの第5週以降の対面授業（連続2コマ）において設定され、活動最終回の授業で各学生がパワーポイント（以下、PPT）を使用して発表（3～4分）ができるように進めていく。テーマは教科書『まるごと 日本のことばと文化 初級2A2 かつどう』第4課または第10課のいずれか1つをクラスで選択し、全員同じテーマで発表するよう、コーディネーターによって設定されている。担当クラスでは、第10課「あなたの国や町の祭りやイベント」を選び、表1のとおり活動を実施した。

表1 担当クラスの「話す活動」スケジュール

	授業中の実施事項（下線は担当クラスの工夫該当箇所）	授業中から授業後の実施事項
第1回	ガイダンス・アウトライン作成	アウトライン提出➡評価
第2回	アウトラインFB・発表メモの作り方説明・発表メモ作成	発表メモ提出➡評価
第3回	発表メモFB・発表のときの話し方説明・ <u>発表メモの読み合わせ①</u> ・PPTの作り方説明	PPT作成・提出➡評価
第4回	PPTのFB・ <u>発表メモの読み合わせ②</u>	
第5回	発表・質疑応答・コメントシート記入	コメントシート記入・提出➡評価

2. 実践の工夫と学生の反応

実践の工夫としては、各自で発表メモを読む練習をするのではなく、ペアで読み合わせをしてコメントし合う場を2回設定し、学生同士で発表の長さの調整や内容の検討を行うようにしたことである。発表メモは形式の指定が特になく、発表の際にそのまま読みあげればよいスクリプト形式の発表メモのフォームを担当クラス用に作成し、記入させた。そのうえで、以下のとおり発表メモの読み合わせを行った。

2-1. 発表メモの読み合わせ①：第3回活動

ペアになり〔役割A：発表メモを読む、役割B：時間を計る、わからない箇所をコメントする〕の役割AとBを交替しながら実施した。読み合わせの目的は、1) 所要時間を正確に計測すること、2) 理解を得られない箇所を知ることである。1) により「2分45秒。短いね。もっと説明を書けば。」等、コースで設定されている発表の持ち時間（3～4分）に対する過不足を確認し、適切な長さへと互いの発表メモの内容を推敲し合うやりとりが生じていた。また、2) により「祭りの音楽。イメージできない。発表で、音楽をかけたら。」等、わからない箇所を共有・コメントし合うことで、教師の手を借りることなく学生同士で改善のための内容の検討がなされる様子が見受けられた。

2-2. 発表メモの読み合わせ②：第4回活動

ガイダンス資料にある発表の評価項目と点数を教室のスクリーンに投影し、全員で確認した。ペアになり〔役割A：自分のPCに発表のPPTを映しながら発表メモを読む、役割B：時間を計る、発表の評価項目について評価する〕の役割を交替しながら発表メモの読み合わせを実施した。今回の読み合わせの目的は1) 所要時間の再確認をすること、2) 学生同士で評価項目の事前評価をしてコメントし合い、内容を再検討することである。机間巡視では、時間については既に大幅な過不足は見受けられず、評価項目について率直に意見し合う様子が見られ、学生達の良いものを発表したいという意欲が感じられた。

3. まとめと今後の課題

発表前に学生同士が発表内容を共有しコメントし合う場を作ることで、学生が自律的に発表の長さの調整や内容の検討・整理をしていく様子をうかがうことができた。

今後の課題は、同様の実践の工夫を3～4名の小グループで実施した場合の効果を検証すること、活動中にあまり発言しない学生への対応方法を検討することを挙げたい。

参考文献

独立行政法人国際交流基金編著（2022）『まるごと 日本のことばと文化 初級2A2 かつどう』三修社。

（はぎわら きみこ，早稲田大学日本語教育研究センター）